

# だんないの道

## 第22号

2016年2月29日発行

発行者：NPO法人CIL だんない

代表者：美濃部裕道

連絡先：〒529-0423 滋賀県長浜市木之本町  
千田681番4

TEL : 0749-50-3639

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

代表あいさつ	.....P1	バリアフリー調査	.....P2
ヤング委員会	.....P3	あきらめるのはまだ早い	.....P4
活動報告	.....P5	職員リレートーク	.....P6
コラム ヨリの雑記帳	.....P7		

### 代表あいさつ

「未完成な自分、未完成なだんない だからこそ、自信をもつ。」

2016年の年間スローガンです。私たちが目指す姿・だんないが目指す社会には終わりはない、完成はないという意味です。一見すると、ネガティブでスローガンとしてふさわしくないように思います。しかし、もっと奥深いものにしたいという思いを込めています。私たちはよく完成を求めるあまり、あせったり、思い切ることができず消極的になったりします。結果として、自分らしい生き方ができずに悔いが残ったりします。そうであれば、今までの未完成な自分たちを自覚し、目標を追い求め続けることに自信を持とうと意識付けしました。完成を目指し続ける「だんないの道」、終わりなき歩みをメンバーそろって着実に進めていきたいと思ひます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

さて、今年になって早くも2ヶ月が過ぎ、例年のような豪雪におびえることもなく、春を迎えようとしています。そんなおだやかすぎる冬に、私は逆に心配しています。ひょっとしたら3月にドカ雪が待ち受けているかも！？と…。これが、ただの私のハズレ予想で終わってくれることを願ひ、春の訪れを待ち続けようと思ひます。

しかし、この暖冬は「だんない」の活動にとっては好都合をもたらしています。会議や講演活動、バリアフリー調査・ILP等の企画は、雪による影響で中止することは一度もありませんでした。また、当事者メンバーも例年であれば、2～3日は自宅待機を余儀なくされるのですが、今シーズンは活動日にはきっちり来て来てくれています。特に、湖南市のたにけんは、いつも2時間以上かけて来て来てくれています。そんなエネルギーな仲間とパワフルに活動していきたいです。

ところで、『だんないの道』でも何度か書いていますが、いよいよ障害者差別解消法の施行が4月に迫ってきました。それに向けた研修を各事業所で実施され、だんないも講師として招かれることが増えてきています。私たちが研修の講師をさせていただくことによって、とても勉強になります。大変ありがたいです。各団体・地域が障害者に対する権利意識を高めようとしています、少し気になるニュースや動きも飛び込んできています。

ひとつは、昨年7月に長崎県で産科医が知的障害者に対して差別発言をしたというニュースです。受診した知的障害の女性に「将来、彼氏も結婚もできない」などと差別発言をしたというものです。その後、母親には謝罪

したとのことですが、本人に直接謝罪すべきだったと思います。権利意識を高めようとする動きに水を差すようなニュースです。

もうひとつは、最近おとなりの岐阜県でふってわいたように出てきた条例作りの動きです。数少ないC I L空白県の1つである岐阜県において、「岐阜県障害のある人もない人も共に生きる清流の国づくり条例」が急ごしらえで作られようとしています。当事者の視点が抜け落ちているのは言うまでもないと思います。これは、国際的な流れである“私たちのことを、私たち抜きに決めないで”の精神に逆行する動きと言えます。このような条例で障害者の権利が保障できるのか疑問を呈さざるを得ません。

このように、権利条約に批准し、差別解消法が施行されようとする、この期に及んでも障害者の権利をないがしろにするような出来事が次々と起きています。そんな状況で、私たちに何が出来るのか真剣に考えていく必要があるのではないのでしょうか。差別解消法や条例作りという喜びにひたるだけではなく、その裏にひそんでいる問題点に向き合いながら、だんないの活動を進めていきたいと考えます。この現状をふまえ、もう一度年間スロージョーナルを読み返すと、感慨深いものがあります。

「未完成な自分、未完成なだんない だからこそ、自信をもつ。」

美濃部 裕道

---

## バリアフリー調査

岡田真由子

私は1月28日に初めてバリアフリー調査に行った。

今回は河毛駅と虎姫駅を調査した。初めてだったのでどんなふうになっているのかな？と思って行ったら、まず河毛駅は道が舗装されてなくガタガタな道が多かった。

でもこれから障害者が使っていくためには、少しの段差でも配慮して作って欲しいと思った。

そして虎姫駅でトイレに実際に座り、手すりの位置や手洗い場の使いにくさや作りなどを調査した。

実際に座ったところ便座の高さが少し高く、車椅子から移ろうと思うと高すぎて乗り移りがしにくかった。あと座った状態で足を踏ん張ろうと思うと少しやりづらさを感じた…

車椅子の人が乗るとき一時間前に言わないと手配をしてもらえないことがわかった。

それを聞いたとき私は「なんでそんな早くに言わないと手配がしてもらえないの？」と思った。

いつどんなときも車椅子の人が乗るかわからないのにそんなことでは困ってしまう。

改札を出て反対ホームへは行けないので不便を感じた。

この作りはどうにもならないのか？。

このバリアフリー調査をして私は駅にもそれぞれ違った不便があると感じた。

これからもっと活動していき不便なところを気づいたら発言していきたいと思う。

初めて行ったバリアフリー調査はいい経験になった。

駅員の皆さまこれからもご協力よろしく申し上げます。

## ヤング委員会

小里 和也

僕は、去年の8月からJIL 関西ブロックヤング委員会に入り活動をしています。

ヤング委員会とは、関西ブロックの各C I Lから若手の当事者が集まり、研修会などの運営を行いスキルをつけ次世代のリーダーを担うという目的があります。

そして、去年の10月にJIL 関西ブロック研修合宿がありました。最初の会議では、緊張もあり、だんないは積極的に意見を言えていましたが、ヤング委員会では慣れない所ということもあり、自由に発言を出来ない自分がいました。また、自分が担当していた情報保障の調整も当日ギリギリになってしまい、周りに相談や意見も言えずみんなに混乱を招いてしまいました。

当日は、いろいろとありましたがみんなでカバーしあい、2日間とも無事終わることが出来良かったです。いつもは、研修会に行く側でしたが準備をする側になってみて、研修会を行う大変さや大切さを改めて感じました。

1ヶ月後には、振り返り・懇親会がありました。振り返りでは、調整が遅れてしまった反省や今後の課題について話しました。ヤング委員会のメンバーに、カバーしてもらいみんなから「一人ですべて抱えなくても、みんなでも共有し相談していこう!」と言ってもらいました。それまでの自分は、意見を言うにもまとまっていなくて、発言する自信がありませんでしたが、このような経験をして、まとめたことだけを発言をするのではなく周りに意見を伝え共有することの大切さを感じました。

3月には、JIL 関西ブロック学習会があります。今回の経験や課題が無駄にならないように共有することを大切にしながらやっていきたいです。

ヤング委員会の活動を通して思ったことがあります。それは、いろいろなC I Lの当事者に会いコミュニケーションをとりながら活動をしていく中で、自分や相手の思いを知り、そこから気づかされることがたくさんあったのですごく良かったと思っています。また、ある当事者から言われた言葉が印象に残っています。それは、懇親会の席で1人暮らし(自立)についての話をしている時に、「もし、介助者が増えたら、すぐに1人暮らしする自信ある?」という言葉です。これまでの自分は、1人暮らしはしたいけど介助者が少ないから出来ないと、周りに言ったりして決め付けていました。でも、この言葉を聞いて一番大切なのは、自分がどれだけの自信を持っているかやる気だと思いました。この言葉を大切にしていきたいです。

これからも、いろいろな経験をし、もっと自信が持てるようにヤング委員会のみんなと活動をしていきたいです!

---

## あきらめるのはまだ早い

谷口健人

僕は、自宅から CIL だんないへ行くために、ほぼ毎日 JR の電車で片道 2 時間ほど乗っています。毎日電車を使っている電動車椅子ユーザーの視点から、言いたいことはたくさんあるのですが、今回はひとつだけ。それは、「車椅子ユーザーよ、発車 3 分前でもその電車に乗りたいと言おう！」ということです。

現状、多くの駅では電車とホームの間に段差・隙間があり、車椅子ユーザーが電車に乗り降りするためには、駅係員に目的地の駅を伝えた上で「渡し板」等と言われる持ち運びのスロープを電車とホームの間にかけてもらわなければいけません。

そして、この渡し板介助の手配のために、遅くとも電車の発車 15 分前には駅に行って係員さんに伝えるというのが常識のようになっています。とくに JR の場合、必ず車椅子ユーザーが電車に乗る前に目的地の駅に連絡をとらなければならないという決まりがあるようで、たとえば発車 5 分前に、この電車に乗りたい！と思っても「今からでは連絡をとる時間がないので、確実に電車に乗っていただける保証がないので無理です」と、電話をかけることすらなく門前払いのような対応を受けることもあります。僕はそういうとき、強い怒りがこみ上げてきます。必ず乗せろと言っているわけではないのです。とりあえず電話をかけてみて、電話がつながって連絡がつけば乗せてくださいと言っているのです。それなのに、無理ですの一点張りで全くとりあってもらえないことがとても多い現状です。

そのような現状なので、「15 分前に駅に来るのは当然。遅く来て電車に乗れないのは自分が車椅子を使う障害者だからしかたない」と思ってあきらめている車椅子ユーザーが多いと思います。だけど、僕はそこであなたに諦めないでほしいのです。

だって、健常者といわれる人たちは、3 分前に駅に来て、当たり前のように電車に乗っていくでしょう？なぜ車椅子を使っているというだけで、乗りたい電車に乗るということを諦めなければならないのでしょうか。あなたが発車 3 分前のその電車に乗りたいと少しでも思うなら、堂々とその電車に乗りたいと声をあげてほしいのです。そうしなければ、あなたが発車 3 分前のその電車に乗りたいと思うその思いは、誰にも伝わることなく、ただあなたの心の内側からあなた自身を苦しめるだけです。あなたがその電車に乗る必要があってもその必要性は誰にも伝わることなく、「15 分前に駅に来るのは当然」の社会は続いていきます。僕らが声をあげてはじめて、社会は変わりはじめます。

車椅子ユーザーよ、発車 3 分前でもその電車に乗りたいと言おう！

## 活動報告

日付	内容	参加者
1月5日	当事者意見交換会	
11日	だんない企画会議	
12日	だんない新年会	
14日	湖東地域障害者自立支援協議会 公開講座 in 多賀	小里
18日	長浜養護学校講演(職員研修)	美濃部
19日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 サポート推進委員会 in 長浜市役所	美濃部
21日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会 in 長浜市役所	美濃部
22日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会 事務局会議	市川
24日	ピア活動	
25日	だんない生誕祭	
28日	バリアフリー調査	
2月2日	長浜市地域福祉活動計画推進委員会 in 湖北社協	美濃部
4日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会 事務局会議	市川
5日	電動車イス指導 in 滋賀県立大学	頼尊・小里・谷口・岡田
7日	『みんなの学校』上映会 in ルッチプラザ	美濃部・小里・大橋
8日	当事者意見交換会	
9日	JIL ヤング委員会 in 大阪	小里
11日	北部地域障害者ネットワーク会議	美濃部・小里・谷口・大橋
13日	難病のつどい2・13 in 近江八幡	美濃部・小里・谷口・大橋
15日	バリアフリー調査	
16日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 サポート推進委員会 in 長浜市役所	美濃部
17日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会 in 長浜市役所	美濃部

19日	湖北会講演(職員研修) in 浅井ホール	美濃部
20日	だんない企画会議	
20日	医療費削減と尊厳死 in 大阪	頼尊

## 職員リレートーク

この度、ご縁をいただき、昨年の11月より「CIL だんない」でお世話になっております。

勤めさせていただき、早3ヶ月が経ちました。勤めはじめのころは、マニュアルのない中での仕事に戸惑いを感じてしまう事や、当事者主権・指示介助という内容を難しく考えてしまう事もありましたが、3ヶ月経った今、私なりに当事者主権・指示介助とは、だんないが目指しておられる「当事者の方の自立生活を実現させる」という理念に基づいているという事が、すごくよくわかり、日々、いろいろな仕事をさせていただける事に、新鮮さとやりがいを感じております。

また、この3ヶ月の間に、小中学校での講演会に参加させていただいたり、日々、仕事をさせていただく中で、私の障害観も大きく変わりました。医学モデルの考え方から社会モデルの考え方へ、だんないに携わる者として、この考え方を社会に広めていければと思っております。まだまだ未熟者の私ですが、これからもだんないが目指しておられる理念を胸に持ち、大切にしながら、仕事をさせていただきたいと思っております。

ご縁をいただき、だんないの皆さんに出会えたこと、勉強をさせていただける事に感謝しながら、これからも精いっぱい頑張っていきたいです。

どうぞよろしくお願いいたします。

里見千佳子

## コラム

ヨリの雑記帳（21）

頼尊恒信

今年に入って、持病のゼンソクがひどく、1月、2月のほとんどは家とだんないとの往復に費やした。僕の極度の外回り癖もこの時ばかりは、「お休み状態」となった。おかげで、だんないの仲間とはじっくり会話出来たものの、外回りネタがない状態。さて、何を書こうか？

休むということは、色々と物事を考えるわけで…。こんな時の常套手段（じょうとうしゅだん）は、言うまでもなく「引きこもり」的な発想しか生まれない。僕の場合、「お休み状態」といっても、決してヒマしていた訳ではない。実際のところ、色々と細かいシゴトに追われていたと言った方が現実在即しているかもしれない。常に、キーボードを叩いたり（時には、叩いてもらったり）、Facebookを見たりなど、なんやかや仕事はある。

で、なぜ私が「お休み状態」と表現するのかといえば、「ゼンソクが出るから、外に出るのはやめよう↓。」と常に思っていたからである。もちろん、自分の身体のことを思い自肅的生活を送ること自体は、悪いことではない。が、しかしである。僕の場合、いったん自肅ムードになると、精神状態が良くないことが多い。ずっとマイナス思考と言っても言い。だからこそ、「お休み状態」と例えるのである。

ホント、約一月半の間、ゼンソク君には悩まされた。咳き込みながらも、仲間とは毎日のように会話をしていたが、なかなか一步を踏み出せない状態であった。そして、1ヶ月ぐらい経って、やっとのことで、ようやく「ゼンソクが治ったら…」と考え出すようになった。ああ、かなり長いスランプ期間であった。

はじめて、県外に出たのは、京都であった。大学時代から行きつけの理髪店に行くためであった。恐る恐るの外出だった。翌日には、もっと遠出が予定されており、その身支度も兼ねた京都行きであった。そこからは、薄皮を剥ぐように元気が戻ってきたといえる。

…それから3週間後。新年はじめての出張。ほんとうにこの道程は長かったように思える。実際には、バタバタしながらの出張であった。年末の最後の出張から数えること、約2ヶ月ぶりの出張だった。待ち合わせ時間等を気にしつつ、かなり急ぎながら出張準備をして電車に飛び乗った。待ち合わせ場所に向かう電車の中で、愛車である「電くる君」の充電器を出張カバンに入れてないのに気がついた。焦って、充電器の調達をしたのは言うまでもない。

「2ヶ月も出張に行かず、だんないにいる」という、ある意味で最近になく、だんない内連続勤務記録を更新した。その間、出張に対する意識が鈍っていた自分に気づかされた。充電器をご厚意でお借りすることが出来、久しぶりの無事出張が終わったのである。

今回の体験で、改めて「障害当事者が外に出て活動する」には大変な体力と精神力が必要であることを改めて感じた。また、ましてや「自肅ムード」の殻を破ることは、非常に難しいし、力があることに気づかされた。

このような僕を支え続けてくれる人々に感謝感謝である。

（よりたか つねのぶ）



NPO 法人 CIL だんない

〒529-0423

代表 美濃部裕道、副代表 市川正太

滋賀県長浜市木之本町千田681番4

事務局長 頼尊恒信、理事 横山卓馬

TEL : 0749-50-3639

URL : [www.ab.auone-net.jp/~dannai](http://www.ab.auone-net.jp/~dannai)

FAX : 0749-50-3961

E-mail : [dannai@ae.auone-net.jp](mailto:dannai@ae.auone-net.jp)

郵便振替口座番号 : ゆうちょ銀行木之本支店 00940-2-209115

加入者名 : NPO 法人 CIL だんない